

栄養学科 シラバスの変更一覧

学年	頁	開講科目
1年	11	英語
1年	13	情報処理
1年	17	生理学
1年	33	栄養基礎演習
2年	47	ライフステージ栄養学実習
2年	53	栄養教育実習
2年	61	栄養総合演習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語				単位認定者	キンズマン ダレン		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	復習テスト(筆記)	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話す」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。									
到達目標	基礎的な英語のListening, Reading, Speaking, Writingを流暢に行うことができる学修スキルを身に付けることができる。英語のコミュニケーションを通して自分のことを知り、教員やクラスメートと英語でコミュニケーションできるようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。指定の予習・課題等を行っていることを前提に授業をすすめる。									
回	授業計画				準備学修					
1	イントロダクション Unit 1 Meeting People				テキストの Unit 1 (Meeting People) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
2	Unit 2 Talking about the Kitchen (1)				テキストの Unit 2 (Talking about the Kitchen (1)) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
3	Unit 4 Likes and Dislikes				テキストの Unit 4 (Likes and Dislikes) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
4	Unit 7 Cooking				テキストの Unit 7 (Cooking) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
5	Unit 8 Receipes				テキストの Unit 8 (Receipes) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
6	Unit 9 Giving Dietary Advice				テキストのUnit9 (Giving Dietary Advice) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
7	Wrap up and test 1 (Units 1, 2, 4, 7, 8, 9)				テキストのUnits 1, 2, 4, 7, 8, 9の復習とテスト。					
8	Unit 10 Talking about Diets (1)				テキストの Unit 10 (Talking about Diets (1)) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
9	Unit 11 Researching Diet Information				テキストの Unit 11 (Researching Diet Information) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
10	Unit 12 Life as a Dietician				テキストの Unit 12 (Life as a Dietician) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
11	Unit 13 Talking about Diets (2)				テキストの Unit13 (Talking about Diets(2)) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
12	Unit 14 People with Special Dietary Needs				テキストの Unit 14 (People with Special Dietary Needs) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
13	Unit 15 Talking about Experiences				テキストの Unit 15 (Talking about Experiences) に目を通し、分からない単語などについて調べておくこと。Reading Activityを予習しておくこと(概ね40分)。					
14	Review and practice				Unit10～15にあるトピックについて発表する準備ができています(概ね2時間)。					
15	Wrap up and test 2 (Units 10-15)				テキストのUnits 10-15の復習とテスト。					
教科書	「Speaking of Nutrition」 Peter Vincent, Alan Meadows, Naoko Nakazato 著 (南雲堂) 2017									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	授業はA・Bの2クラスに分かれて行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01			
	●	●		●					
科目名	情報処理				単位認定者	氏家 留美子		試験(筆記)	50%
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	授業内課題	20%
					授業形態	演習	授業時間数	30時間	受講態度
							授業回数	15回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツール、ビジネスツールとして重要な位置を占めるパソコンを使用する際に必要な情報セキュリティの基本を学修し、パソコンを用いたWordによる効率的な文書作成、Excelによる表計算及びグラフ作成、PowerPointによるプレゼンテーション資料を作成するスキルを身につける。								
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、業務内でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用出来ることを目標とする。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使う。グラフを作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し、訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。								
学修者への期待等	パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作が出来るようにすること。操作が出来る者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問をして確認すること。各自が作成したデータを保存するためのUSBメモリを準備すること。(他の科目と共用可)								
回	授業計画				準備学修				
1	基礎知識：Windowsの基本操作 Word：入力方法・ビジネス文書入力・保存・書式設定				<p>【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【復習について】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によって、パソコンスキル(技能)は各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>				
2	情報保護：情報セキュリティに関する知識 Word：文書の書式設定・印刷設定								
3	Word：表を取り入れた文書の作成								
4	Word：段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター								
5	Word：イラスト・写真・ワードアート・図形描画								
6	Word：レポートなどの長文作成時の効率的な機能 情報保護：著作権に関する知識								
7	PowerPoint：スライドの作成・アニメーションの設定 スライドショーの実施方法・印刷設定								
8	PowerPoint：図解表現の手法・指示するテーマを元に課題の作成								
9	Excel：入力と編集方法・数式や関数(SUM・AVERAGE)・書式設定・行列操作・表示形式・保存・印刷設定								
10	Excel：相対参照と絶対参照の使い分けをした数式								
11	Excel：複数ページの内容に対する印刷設定・基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTA)								
12	Excel：順位付けの関数・条件分岐関連の関数(RANK.EQ・IF・COUNTIF・SUMIF関数など)								
13	Excel：日付関連の関数・一覧表から参照する関数(TODAY・VLOOKUP関数など・関数のネスト)								
14	Excel：グラフ作成								
15	Excel：データベースの操作(並べ替え・抽出)								
教科書	『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』杉本くみ子/大澤栄子著、実教出版								
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。								
備考	授業中にパソコンの操作手順を示す場合は、講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。 授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。 「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。後日、添削をした上で各学修者へ返却する。 授業はA・Bの2クラスに分かれて行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NT-1-HBF-01			
	●								
科目名	生理学				単位認定者	鈴木 裕一		授業内課題 (小テスト)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	生理学では、「からだ」の機能（働き）を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで生じるかを探求する。人体を構成する器官の仕組みや機能について総合的に学び、個々の器官の機能と人体の全体的な機能について理解を深める。生体が働く仕組みとその理由を学修し、特に、摂食行動の調節機構に関連する働きの理解を深める。								
到達目標	各器官系の機能を構造とともに説明できる。特に消化管機能と、人間の摂食行動について説明できる。								
学修者への期待等	小テストに真剣に取り組むこと。質問や講義に対する要望を歓迎します。								
回	授業計画				準備学修				
1	細胞と組織				予習：教科書全体に目を通して（概ね60分）授業に臨んで下さい。				
2	運動器系1：骨の構造と機能（骨リモデリング）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
3	運動器系2：筋肉の収縮、運動ニューロン				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
4	神経の構造と働き、反射				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
5	筋電図、神経伝導速度、腱反射（実験を含む）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
6	呼吸調節、体温調節				前回の実験内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
7	循環器系1：心機能、心電図、血圧				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
8	循環器系2：体循環、肺循環、リンパ系				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
9	消化器系1：口腔機能 (咀嚼と嚥下、味覚と嗅覚[実験を含む])				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
10	消化器系2：消化管運動、消化液分泌、肝臓の働き				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
11	自律神経系、内分泌系（ホルモンの働き）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
12	内分泌器官（視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質髄質）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
13	血液・造血器系（血液凝固、免疫・アレルギー）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
14	尿生成と排泄、体液の組成と調節（酸塩基平衡、浸透圧）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
15	摂食行動の調節機構（神経とホルモンの関与）				前回の講義内容の復習テストを行います。その準備をしてきて下さい。				
教科書	「なるほどなっとく！解剖生理学」 多久和典子，多久和陽著（南山堂）								
参考文献	特になし								
備考	小テストは3回に分けて第5回・第11回・第15回に行います。授業はA・Bの2クラスに分かれて行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NT-4-SEM-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	栄養基礎演習				単位認定者	佐藤 玲子 岩間 正典 山田 文也 高泉 佳苗 藤枝 弥生子 平澤 和樹 高鳥 美奈子		評価の方法	授業内課題 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	40 時間			
						授業回数	20 回			
授業の概要	食と栄養に関する基礎力を養成する。初学者が栄養学を学ぶにあたって必要とされる素地を育成し、また校外実習への心構え等を身につける。 教養教育分野と専門教育分野で学ぶ知識及び技術を背景にしながら、より実践力を修得できることを目指す。									
到達目標	1. 栄養士となるための基礎的知識や技能を修得するための心構えを知る。 2. 将来栄養士としてさまざまな分野で活躍するために、実践で活躍している栄養士から学ぶ。									
学修者への期待等	栄養士資格を取得して働く意味および仕事の内容を理解し、学科の学びのポイントを把握すること。目標を持って楽しく積極的に学ぶこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	ガイダンス 仙台市科学館について (外部講師) グループ活動①								単位認定者 全員	
2	グループ学修1: 「科学館学修」 校外授業								単位認定者 全員	
3	栄養士とは 学生自己紹介 グループ活動②				各自自己紹介をしますので事前に内容を簡潔にまとめておくこと。(概ね30分)				単位認定者 全員	
4	栄養士・管理栄養士の仕事①高齢者施設 (外部講師)				高齢者施設の法的根拠や種類を調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
5	栄養士・管理栄養士の仕事②保育所・幼稚園 (外部講師)				保育所・幼稚園の法的根拠を調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
6	栄養士・管理栄養士の仕事③市町村 (外部講師)				市町村栄養士の仕事を調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
7	栄養士・管理栄養士の仕事④給食受託会社 (外部講師)				委託給食とは何かを調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
8	栄養士・管理栄養士の仕事⑤企業・事業所 (外部講師)				企業や事業所で働く栄養士の業務について調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
9	栄養士・管理栄養士の仕事⑥在宅訪問栄養士 (外部講師)				在宅訪問による栄養士の業務について調べておくこと (概ね1時間)				単位認定者 全員	
10	グループ学修2: テーマを決める								単位認定者 全員	
11	校外実習について 実習希望先提出				施設別栄養士の業務内容を確認し、校外実習の希望施設および栄養士としての就職先を考えてくること (概ね30分)				単位認定者 全員	

回	授業計画	準備学修	担当
12	グループ学修3：「食品生産現場の見学」 フィールド講義（校外授業）	農作物の栽培と食品加工について調べておくこと（概ね1時間）	岩間 正典 藤枝 弥生子 平澤 和樹
13	グループ学修3：「食品生産現場の見学」 食 育・給餌体験（校外授業）	授業で提示される課題（レポート）を まとめて期限までに提出すること（概 ね1時間）	岩間 正典 藤枝 弥生子 平澤 和樹
14	食品製造と衛生管理（外部講師）		単位認定者 全員
15	栄養学に関する講話（外部講師）	授業で提示される課題（レポート）を まとめて期限までに提出すること（概 ね1時間）	単位認定者 全員
16	食育活動の実践例（外部講師）		単位認定者 全員
17	海外の食文化：イタリア料理（外部講師）	授業で提示される課題（レポート）を まとめて期限までに提出すること（概 ね1時間）	単位認定者 全員
18	栄養士に必要なコミュニケーションスキル		小形 美樹 単位認定者 全員
19	校外実習 2年生による体験発表		単位認定者 全員
20	グループ学修2：成果発表		単位認定者 全員
教科書	「めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション」 小野章史編著（第一出版）		
参考文献	「大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法」松本茂，河野哲也著（玉川大学出版部） 「大学学びのことはじめ」佐藤智明，矢島彰，山本明志編（ナカニシヤ出版） 「知へのステップ第5版—大学生からのスタディ・スキルズ」学習技術研究会編著（くろしお出版） 「大学生のためのキャリアガイドブック」寿山泰二，宮城まり子他著（北大路出版）		
備考	<p>第1～10回：年間予定表通り，第11回：8月6日（木） 第12・13回：9月24日（木），第14回：10月12日（月），第15回：10月19日（月）， 第16回：10月26日（月），第17回：11月2日（月），第18回：11月9日（月）， 第19回：1月20日（水），第20回：1月25日（月）</p> <p>授業の順序については，都合により前後することがありますので掲示を確認してください。 提出されたレポートは，内容を確認して返却します。</p>		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NT-2-NUH-04					
	●	●	●	●							
科目名	ライフステージ栄養学実習				単位認定者	高泉 佳苗		評価の方法	実習ノート、授業内課題	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30	%
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	乳児期から高齢期までのライフステージの特性をふまえた食事計画や調理を実習し、各ライフステージに適した食事のあり方や健康を維持・増進するための食生活のあり方について学ぶ。また、「ライフステージ栄養学」で学んだことをもとに、ライフステージにおける栄養的問題を把握し、栄養管理を行う基礎的な知識を身につける。										
到達目標	1. 離乳食、幼児食、高齢期の食事計画および調理ができる。 2. 生活習慣病予防に配慮した食事計画および調理ができる。 3. 食物アレルギー、貧血について食事の管理を中心とした栄養管理が実践できる。										
学修者への期待等	授業では実習ノートに実習記録やまとめを記録し、授業中に提出してもらいます。欠席した授業についても実習ノートを記載し、次回提出してください。電卓と食品成分表は必携です。										
回	授業計画					準備学修					
1	授業の概要、食事摂取基準について、食育（フィルムフォーラム）										
2	調乳、離乳食の進め方、ベビーフード					事前：第3章「乳児期の栄養管理」について教科書を読む（概ね30分）					
3	離乳食：5・6か月食（初期）、7・8か月食（中期）										
4	離乳食：9～11か月食（後期）、12～18か月食（完了期）										
5	離乳食の食事計画										
6	幼児期（1～2歳児）の食事					事前：第4章「幼児期の栄養管理」について教科書を読む（概ね30分）					
7	幼児期（3～5歳児）の食事										
8	幼児期の食事計画										
9	食物アレルギーの食事の管理を中心とした栄養管理										
10	思春期・青年期の食事					事前：第6章「思春期と青年期の栄養管理」について教科書を読む（概ね30分）					
11	生活習慣病の予防に配慮した食事計画					事前：第7章「壮年期の栄養管理」について教科書を読む（概ね30分）					
12	貧血の食事の管理を中心とした栄養管理										
13	高齢期の食事					事前：第9章「高齢期の栄養管理」について教科書を読む（概ね30分）					
14	高齢期の食事計画										
15	第11回の食事計画の調理（昼食）・試食・評価（少人数授業：授業日は備考を参照）					事前：食材購入（概ね1時間）					
教科書	「応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理」東愛子ら編著（講談社）										
参考文献	「これからの応用栄養学演習・実習－栄養ケアプランと食事計画・供食－」渡邊早苗他編（朝倉書店）										
備考	第1回はA・B合同で授業をします（5月13日1・2限）。それに伴い、Aクラスは5月14日、Bクラスは5月12日が休講となります。第2～15回はAクラスとBクラスに分かれて授業をします。第15回はクラスをさらに2グループに分けて授業します（Aクラス：8月19日（水）の1・2限か4・5限、Bクラスは8月25日（火）4・5限か8月27日（木）1・2限、各自の授業日は別途連絡）。第1, 5, 8, 11, 14回は教室で行います。実習ノートと授業内課題は内容を確認後に返却します。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NT-3-NUE-03			
		●	●	●	●				
科目名	栄養教育実習				単位認定者	高泉 佳苗		授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度	30 %
					授業形態	実習	授業時間数	45 時間	
							授業回数	12 回	
授業の概要	「栄養教育論」で学んだことをもとに、集団と個人に対する指導方法と教材作成を実習する。集団指導については、設定集団に対する栄養教育とポスター作成を行う。個人指導については、学生同士が各対象者となり相互にアセスメント（食事調査、身体計測など）し、その結果に基づいた栄養指導計画の作成、栄養指導を実施し、栄養指導能力を修得する。また、既存の資料やデータを収集し、国民の健康状況や課題について理解する。								
到達目標	1. 対象の特徴に応じた栄養指導を立案し、実践することができる。 2. 食事調査の結果について食事摂取基準を活用した評価ができる。 3. 必要な資料やデータを収集し、そのデータを解釈することができる。								
学修者への期待等	準備学修に示した内容を復習して授業に臨んでください。授業はグループで行う作業や話し合い、発表が多いので協調性を持ちながら積極的に取り組んでください。電卓とUSBを準備してください。								
回	授業計画				準備学修				
1	授業への導入、インターネットの使い方、インターネットを活用した情報収集とデータ解釈								
2	保育園・こども園・幼稚園における栄養指導の立案、教材作成、発表シナリオ作成、リハーサル				事前：幼児期の栄養教育について「栄養教育論」を復習しておくこと（30分）				
3	個別指導：栄養アセスメント①（身体計測、身体活動の評価、食事記録法について）								
4	保育園・こども園・幼稚園における栄養指導の実践 小・中・高等学校における栄養指導の立案				事前：学童期・思春期の栄養教育について「栄養教育論」を復習しておくこと（30分）				
5	小・中・高等学校における栄養指導の教材作成、発表シナリオ作成、リハーサル								
6	小・中・高等学校における栄養指導の実践 個別指導：栄養アセスメント②（問診、食事調査の聞き取り・栄養計算）				事前：第3回で配布・説明した食事記録用紙に食事記録をつける（30分）				
7	職域・地域における栄養指導の立案、評価アンケート作成、教材作成、発表シナリオ作成、リハーサル				事前：成人期の栄養教育について「栄養教育論」を復習しておくこと（30分）				
8	栄養教育ポスター立案・作成				事前：青年期の栄養教育について「栄養教育論」を復習しておくこと（30分）				
9	職域・地域における栄養指導の実践、評価アンケート集計・評価								
10	高齢者福祉施設や在宅介護の場における栄養指導の立案、教材作成				事前：高齢期の栄養教育について「栄養教育論」を復習しておくこと（30分）				
11	個別指導：問題点の抽出、食事摂取基準を活用した評価、指導計画、教材作成、リハーサル								
12	個別指導：進め方と記録（SOAP）、実践 栄養教育ポスター評価アンケート集計・評価								
教科書	①「栄養科学シリーズNEXTシリーズ 栄養教育論実習」 片井加奈子他編（講談社サイエンティフィック）、②授業科目「栄養教育論」の教科書								
参考文献	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論」 笠原賀子・斎藤トシ子編（講談社）								
備考	欠席した授業の課題は次回までに取り組んでおいてください。校外実習期間（8/3～8/7）は休講とします。AクラスとBクラスに分かれて授業します。授業内課題は、内容を確認して返却します。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

管理栄養士として病院に勤務し栄養管理業務に従事した実務経験を有する。病院における栄養指導や地域における食育活動に関わった経験を活かした授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NT-4-SEM-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	栄養総合演習				単位 認定者	佐藤 玲子 岩間 正典 山田 文也 高泉 佳苗 藤枝 弥生子 平澤 和樹 高鳥 美奈子		評価の方法	演習ノート, 授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	栄養学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	<p>本科目を通じて、現代社会が直面する、食と栄養に関わる諸問題や健康増進の取組等について、広い視野から理解し、それらに対処することのできる能力の養成を図る。また、栄養のプロフェッショナルとして総合的実践能力を身につけることを目指す。</p> <p>これまで栄養学科において学んだ知識と技術を統合・活用して、栄養に関連した課題を自らが設定し、その解決のための過程を構築して、解答を導き出すことを目指す。</p> <p>また、校外実習における事前指導として各施設の概要を現場の栄養士から学ぶ。実習後は、実習で経験したことを発表し合うことで各施設の理解を深める。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 校外実習前は、校外実習の準備学修が主となる。施設の種類や各施設による栄養士業務の相違を理解する。 校外実習後は、校外実習の体験をまとめ、その報告を行い、栄養士業務を確認する。報告を聞くことで様々な施設の栄養士業務について理解し視野を広める。 食に関する講話を聴き、その内容を理解しまとめる。 									
学修者への期待等	<p>欠席した授業についても講義内容を演習ノートにまとめてください。</p> <p>校外実習に備えて準備を怠らないこと。事前準備をしっかり行うことで充実した実習を体験してください。実習後は体験したことを報告することで人に伝えることの技術を修得し、発表を聞くことで各施設の理解を深めてください。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 栄養士のための履歴書の書き方（外部講師）									
2	校外実習の意義と目的・心構え、校外実習の全体の流れ					教科書「ナビゲーション」を読んで栄養士の主な職場と仕事の内容を確認しておくこと。（概ね30分）				
3	リクルートスタイルについて（外部講師） 校外実習に向けて 身だしなみ・服装チェック					リクルートスタイルで授業に参加すること。				
4	校外実習ノートの書き方、電話のかけ方、FAXの出し方、礼状の書き方					校外実習ノートに目を通しておくこと。（概ね30分）				
5	学校給食について（外部講師） 演習ノート記入									
6	校外実習に必要な知識について、実習施設の概要調査とまとめ									
7	保育所給食について（外部講師） 演習ノート記入									
8	食育について（外部講師） 演習ノート記入									
9	熱中症予防について（外部講師） 演習ノート記入									
10	セントラルキッチンについて（外部講師） 演習ノート記入									
11	病院栄養士講話（外部講師） 演習ノート記入									
12	高齢者施設給食について（外部講師） 演習ノート記入									
13	自衛隊給食について（外部講師） 演習ノート記入									

回	授業計画	準備学修
14	食べ物と薬（外部講師） 演習ノート記入	
15	校外実習に関する事前指導 演習ノート中間提出	
16	校外実習報告のプレゼンテーションの仕方 実習報告スライド作成①	
17	乳酸菌に関する講話（外部講師） 演習ノート記入	
18	食に関する講話（外部講師） 演習ノート記入	
19	実習報告スライド作成②・提出	
20	実習報告スライド修正・発表準備	
21	実習報告 学校給食 演習ノート記入	
22	実習報告 高齢者施設 演習ノート記入	
23	実習報告 病院① 演習ノート記入	
24	実習報告 病院② 演習ノート記入	
25	実習報告 保育所① 演習ノート記入	
26	実習報告 保育所② 演習ノート記入	
27	実習報告 保育所③ 演習ノート記入	
28	実習報告 自衛隊 演習ノート記入	
29	就職後の心構えに関する講話（外部講師） 演習ノート記入	
30	まとめ、演習ノート最終提出	演習ノート最終提出に向けて、各自ノートをまとめておくこと。
教科書	「めざせ栄養士・管理栄養士 まずはここから ナビゲーション」 小野章史編著（第一出版） 「臨地・校外実習のてびき」第2版 木戸詔子・福井富穂 編（化学同人）	
参考文献		
備考	第7回は6月26日（金）5限に実施します。その他の外部講師の授業回は授業変更がありますので、掲示板を確認してください。 第15回の担当割り当て： ＜病院・高齢者＞平澤・山田 ＜保育所＞高泉・高鳥・岩間 ＜自衛隊＞佐藤・藤枝 授業の順序については、都合により前後することがあります。 提出された演習ノートは、内容を確認して返却します。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--